

集落支援だより

No.10



岩国には、江戸時代から白蛇が住み着いていました

問い合わせ：

岩国市中山間地域振興室

集落支援員 金丸 恵子

電話：0827-29-5015

明けましておめでとうございます

今年も早、松の内は過ぎましたが、新年は穏やかに過ごされましたか。昨年は集落に戻られた方、残念ながら離れられた方と様々な人間模様がありました。

今年も集落の活性化のために何ができるのか、集落の皆様と話し合っていきたいと考えてます。



「梅雨左衛門」の大岩



苔の中に真っ赤な実をつけるヤブコウジ群落

“お正月の赤い実”

写真（火打岩集落で撮影）のヤブコウジは別名ヤマタチバナ（山橘）、ジュウリョウ（十両）ともいいます。千両や万両に比べると随分、謙虚な名前です。10 cmに満たない丈ですが、常緑小低木です。正月に赤い実を付ける万両・千両・百両・一両と共に縁起の良い植物として、古くから愛でられてきました（万葉集には藪柑子と表記）。和名の由来は実がミカンの仲間の柑子に似ていて、藪の中に自生していることから「藪柑子」とつけられたそうです。集落内の半日陰で、水分量の多い斜面に自生しています。ちなみに花言葉は「明日の幸福」、小さくても自分を守る毒を持ち、それは使い方によっては薬効成分にもなります。明日に向けて少しでも前向きに、したたかに生きるヤブコウジに乾杯です。

